



日本老年医学会 学術総会 in 仙台

「ACP 推進に関する提言」

「高齢者在宅医療・介護サービスガイドライン2019」

「改訂版 健康長寿診療ハンドブック」

日時 6月6日(木) 17:15~18:15

会場 仙台国際センター展示棟1階 会議室4

日本老年医学会では、『「高齢者の終末期の医療およびケア」に関する日本老年医学会の「立場表明」2012』や、『高齢者ケアの意思決定プロセスに関するガイドライン』など、高齢者のエンドオブライフケアに関係した提言ならびにガイドラインを公表してきました。

昨今、厚生労働省から「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」、ならびに日本医師会第 XV 次生命倫理懇談会より「超高齢社会と終末期医療」が発表され、超高齢社会における終末期医療の在り方、さらには医療・ケアに関する意思決定プロセスの在り方が提案されました。それぞれに終末期の医療・ケア行為に対する意思決定プロセスとして ACP (Advance Care Planning)の重要性が指摘されています。ただ、ACP はもともと英語圏で発展し浸透してきた概念であり、そのまま日本の文化、システムに持ち込むことが難しいという懸念もあります。

しかし、超高齢社会における高齢者のエンドオブライフにおける意思決定支援プロセスとしてACPの概念は無くしてはならないものと考え、日本老年医学会は高齢者医療・ケアを専門領域とする学会として、これを自らの喫緊の課題と認識し、全国の医療・ケア従事者に対して、日々の活用を視野に、「ACP の推進に関する提言」を発表することとし、まずはメディアの皆様方に本提言の詳細を発表させていただきます。

また、日本老年医学会、日本在宅医学会、国立長寿医療研究センターは今後の超高齢社会における在宅医療の発展に寄与するため、「高齢者在宅医療・介護サービスガイドライン 2019」を発行いたしました。これも併せてこの度報告をさせていただきます。

さらに、8年を経て改訂を行う「健康長寿診療ハンドブック」についても紹介します。フレイル・サルコペニア、高齢者の慢性疾患の管理法、地域包括ケアシステムなどを項目として追加したのみならず、新たに老年医学会から出されたガイドラインなどの表法を追加しました。執筆者を大きく入れ替え、この8年間の高齢者医療の変容と、医学・医療・介護の進歩、我々の種々の活動を反映して全面的に改訂を行いました。超高齢化が進む日本において、実地医家に必要な医療・介護のスキルは何かを追求したもので、日本が目指すべき姿の縮図としてお考えいただきたく紹介させていただきます。

上記を含め、仙台での日本老年学会・日本老年医学会の概要も紹介させていただきます。

- ※ 事前の申し込みは不要です。名刺をお持ちください。
- ※ 開催当日、実施記録として写真撮影・録音・録画等を行う場合がございます。また、撮影した写真等の一部を本会ホームページ等に公開する場合がございますので、予めご了承ください。